

『愛の降臨』

～新時代の聖書～

【まえがき】

「神は愛なり」とは永遠の真理であり、人類普遍の真理であります。そして、「神は言葉なり」と言われるが如く、愛は、言葉を通して、真理として、法として、語られることがあります。

今から二千年前にイエス・キリストが語られた御言葉の数々も、神の聖なる愛そのものであります。

本書においても、大いなる神の愛が降臨され、聖なる御言葉の数々を説かれたのであります。愛そのものが降臨され、愛の風そのものが吹き抜けていったのであります。

しかし、一口に愛といっても、地球の精神史の流れの中には、様々な愛があります。そのどれもが微妙にニュアンスの異なった色合いを持ち、この地球の歴史を彩ってきたと言えましょう。

その中で、主な愛を四柱取りあげ、一章から四章に渡って、それぞれの愛を担当しておられる神々に御降臨いただき、限りなく愛そのものとして語って

いただきました。

第一章の「愛の降臨」は、ヘブライ的なイエス・キリスト的愛の精神が語られています。その神の威厳と格調高さ、美しさ、そして、自己犠牲的なまでに徹底的な優しさが特徴であろうと思います。

第二章の「愛の大河」は、ギリシャ的なヘルメス的愛の精神が語られています。天の川を、優しく、美しく、吹き抜けてゆくような愛の風の感触と、エーゲのブルーを思わせるような限りない透明感が特徴であると思います。

第三章の「光一元の愛」は、本来の日本的な天御中主神的愛の精神が語られています。地球に新時代の到来を告げ知らせている「ニューソート」運動の核となっている根源の神の教えであり、光一元の光明思想の背後にある独自性を持ちながら、また、かなり普遍的でもある愛の教えの本義が説かれています。日本神道の中にも、イエス・キリストの愛にも通じる本格的な愛の精神があるという真実を、全世界に知らせてゆかなければならぬと思います。

第四章の「哲学的愛」は、ギリシャ的なプラトン的愛の精神が語られています。限りなく知性的な、また、理性的な愛もあるのであるということ、そして、哲学思想の根源にも、やはり神の愛が流れているのであるということが、お分かりになられるのではないかと思います。

第五章の「愛からの伝道」においては、新時代に啓示された愛の福音を全人類に伝えてゆかんとする愛そのものが、皆様の内よりこみ上げてこられることがあります。

どうか、この永遠なる愛の福音を、魂の奥の奥に刻みながら御熟読下さい。